



# しらね 5月号

## 「いいスタートが切れました」

～たくさんの幸せに應えるためにも～

学校長 持丸 隆一

新緑がまぶしい季節となりました。先日は2年生の児童が斎藤さんの竹やぶでだけのご掘りの体験をさせていただきました。ふかふかの竹やぶ、土と竹の香り、そよそよと揺れる葉っぱの音、どれも貴重な体験となりました。2年生の国語の教科書の一番最初の単元に「ふきのとう」という竹やぶが舞台となった音読を主とした学習があります。竹やぶの中で春を感じる話です。授業参観の折にも児童たちが音読していました。横浜市の学校では、どこの学校でもこの単元を学習するのですが、本物の竹やぶに入ること、より情景を感じて豊かな表現ができるようになる機会がもてる学校は、そう多くないと思います。こんな素敵な体験のできる白根の子どもたちは幸せです。

4月号で「いい学校」の話をしましたが、「いい学校」となるためには、まず毎日、児童が安全に学校に通うことができなくてはなりません。児童自身にできることもありますが、周りの大人の配慮が必要なこともあります。

当然のこととして保護者は、児童の健康面での管理を担うこととなります。規則正しい生活。栄養バランスのよい食事に始まり、安心して何でも相談できる家族関係の構築など、保護者の担う役割は非常に大きいです。児童にとっての最大の支援者は保護者だからです。新年度は大人にとっても新しい生活が始まり、環境が変わることもあるかもしれませんが、今一度家庭の状況も確認し、子どもたちにとって最大限の支援をよろしくお願いいたします。



また、街の人たちも児童の安全に関して心を砕いてくれています。学年当初の集団登校には、各地区の役員さんが付き添ってくださり、交差点では地域の方々が児童の横断の補助をして下さっています。みなさんに見守られ、安心して学校に通える白根の子どもは幸せです。

だからこそ児童には、自分自身でできることは、しっかりと行ってほしいとも思います。基本的には自分の命を守るのは自分自身です。何度も言われていることですが、道を横断するときは「右を見て、左を見て、もう一度右を見て」「道路は歩道や右側の端を歩きましょう」特に、「信号の変わり目の横断は待つ」ことが大切です。

大切にされていることを感じているなら、一番の感謝の印は、元気に学校に通うことです。幸い、大きな事故もなく「いいスタートが切れています」今月もみなさまとともに充実した学校生活を送れるよう子どもたちを支援していきたいと思っております。